

Kビジョン放送番組審議会(2011 年 3 月 24 日)

放送番組審議会(第 13 期第 2 回会合)では、『Kビジョン元日お年玉スペシャル』(2011 年 1 月 1 日放送)、『あなたに会いたい“福田靖さん”』(2011 年 1 月 1 日～3 日放送)、『スッパ抜きローカル探偵局』(2011 年 1 月 1 日～3 日放送)を合評しました。

<合評番組>

■『Kビジョン元日お年玉スペシャル』

Kビジョンスタジオと地域を結んで元日正午より 5 時間生放送。スタジオでは福本・梅田キャスターを中心に、平生町の視聴者宅では釣り情報番組バレたらあかん」の“かおりん”がにぎやかなお正月の様子を伝えました。また、初日の出や花岡八幡宮の初詣の様子をお届けしました。番組内では、福本 & 梅田レポーターが地域に特産品を使ったオリジナル雑煮づくりにも挑戦しました。

■『あなたに会いたい“福田靖さん”』

地域で活躍している人やグループをゲストに招いて話を聞くトーク番組。今回は、NHK 大河ドラマ「龍馬伝」をはじめ、木村拓哉主演の「HERO」、「救命病棟 24 時」、「CHANGE」などの大ヒットドラマの脚本を手がけた周南市出身の福田靖さんをゲストに迎え、通常 15 分を 30 分に拡大しお送りしました。

■『スッパ抜きローカル探偵局』は、あなたの町の身近な不思議。ローカル探偵局が徹底的に調査し、答えを出します。さて今回の気になる「不思議」はなんでしょう。内容は、「銀婚式奉祝記念の碑」「視聴率調査」「光井と三井」。

<合評内容>

■『Kビジョン元日お年玉スペシャル』

「着物の帯の結び方も特殊だったように見えたので、そういった部分を紹介してもよかった」、「プロが作るのはいいのが当たり前なので、ここは敢えて MC2 人で作った方がよかった」、「お雑煮は地域によって作り方や味付けが違っているので、そうした各地の家庭のお雑煮を見てみたい」、「各地で生産された食材を使ったことで、地域の特産品について認識を深めることができた、生産者にとっても励みになったのではないかな」、「視聴者は番組中のキャスターのコメントやトークなど細かい部分にまで注目しながらテレビを見ているので、キャスターやリポーター・カメラマンは撮影や編集時などこの点を頭に入れ、コメントや編集に気を配ってほしい」等のご意見をいただきました。

■『あなたに会いたい“福田靖さん”』

「普段は地域で活躍する人をゲストに招いているが、今後も時期を見ながら地元出身で中央で活躍する人を紹介してほしい」、「映画館でのトークのため、画面の変化が少なく単調に感じた」、「福田さんが脚本を手がけたドラマの 1 シーンなどを加え、変化を出せるとよかった」、「通常のスタジオ収録と異なり、映画館での収録は雰囲気があってよかった」、「高校時代の写真などを VTR に加えれば、変化が出せたのではないかな」、「テロップ、映像など細かい配慮が必要ではないかな」等のご意見をいただきました。

■『スッパ抜きローカル探偵局』

銀婚式記念碑の謎について、「視聴者の依頼から調査したのだと思うが、謎は解明しているが、個

人的には興味をひかれる内容には思えなかった」、「地元にながら、こうした石碑があることを知らず、番組を見て新たな発見になった」、視聴率調査について、「調査対象をおじいちゃん・おばあちゃんだけでなく、時間帯を変えたりして対象の幅を広げて聞いた方がよい」。光井と三井の地名の謎について、「地元の人以外は2つの地域の位置関係が分からないので、地図を入れた説明がほしい」、「井戸が分かっていると解説していた件は神秘的な印象を受けた。これからも地域の疑問を掘り下げてほしい」、「三井地区の由来については、郷土史家の人も詳しいことは知らなかったようなので、ちょっと困っているように見えた」、「光井の由来だけを説明したのでよかったのではないか」、「三井地区に住んでいるので、地元の話が紹介されていて興味深く見ていたが、詳しいことは分からないという結果で終わり、拍子抜けの印象だった」、「分からないのであれば、最初に三井地区についての解説をして、光井地区に話題を特化した方がよかったのではないか」その他、「探偵(リポーター)とインタビューされている人との会話を聞いていると、さらりと受け流していて、冷たい印象に感じることがある。優しく、親しみのあるお姉ちゃんという雰囲気があるといいし、もっと自分を出してもよいのではないか」、「視聴者が利用できるチャンネル、面白い番組をつづけてほしい」、「調査依頼用紙を作って回収箱を設置するなど、一般より広く依頼を募集してみてもどうか」等のご意見をいただきました。

また、合評の後、4月番組改編について社側から説明しました。

出席者は、坂田祐次委員長、高橋麻鈴、松崎信義、長浦徹、長谷範男、寺崎益朗、玉泉瑞穂の各委員、社側から長尾 一郎代表取締役社長、杉田昌士取締役専務、他制作部員7名でした。